

脳の「記憶遺伝子」特定

岐阜薬科大など海馬に多く存在

岐阜薬科大や神戸大など5大学による研究グループは15日までに、脳の「海馬」と呼ばれる部位に多く存在する特定の遺伝子が記憶に関与していることをマウスを使った実験で突き止めたと発表

した。研究成果は米オンライン科学誌「プロス・ワ」に16日(日本時間)に掲載される。

海馬とは学習や記憶の形成に重要な役割を果たす。研究グループが突き止めた遺伝子は「ジアシ

ルグリセロールキナーゼβ」(DGKβ)で海馬に多く存在する。実験では、DGKβを持たないマウスは正常なマウスに比べ記憶力が劣り、記憶の形成・保持に障害が認められたという。

方が、同程度の学力を有する方。学部・学科は問いません。《社会人採用の応募資格》社会人として勤務経験がある方。記者経験がない方も歓迎します。

岐阜薬科大の原英彰教授(薬効解析学)は「さらにDGKβの働きを調べることで、アルツハイマー病などの精神疾患のメカニズムの解明や新薬の開発の手掛かりになる」と話している。